この建築材料等品質性能表は、特記仕様書記載の材料の品質、性能、試験方法を詳細に示したものである。

章	項目	品質　性能　試験方法・・

9 防水工事

アスファルト防水

〈乾式保護材〉
(品質・性能)

分類・規格		・窯業系ﾊﾟﾈﾙⅠ類(乾式仕様)	・窯業系ﾊﾟﾈﾙⅡ類(一般地仕様)	・金属複合板
寸法(mm)	厚さ(mm)			
	幅(mm)			
寸法の許容差		厚さ：±10%、-5%、・幅：±1%		
出荷時の含水率		出荷時において10%以下		−
曲げ強さ・曲げﾓｰﾒﾝﾄ(N・cm)(ｽﾊﾟﾝ50cmにおける単位幅1cmあたりの曲げﾓｰﾒﾝﾄ)	標準時	550以上	450以上	300以上
	凍結融解完了時	400以上	320以上	250以上
	(試験ｻｲｸﾙ数)	(300)	(200)	(300)
吸水率(%)		20以下	20以下	1以下
吸水による長さ変化率(%)		0.07以下	0.07以下	0.01以下
難燃性		不燃	不燃	表面材は不燃
耐凍結融解性能		曲げ強さ、ﾓｰﾒﾝﾄ凍結融解完了時の試験ｻｲｸﾙ後、著しい割れや剥離がなく、外観上異常がないこと		
耐衝撃性能		質量500g(窯業系ﾊﾟﾈﾙⅠ類は1,000g)のおもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落としたとき、裏面に達する穴があかないこと。		質量500g(窯業系ﾊﾟﾈﾙⅠ類は1,000g)のおもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落としたとき、裏面に達する穴があかないこと。 残留変形量1/100以下かつ加圧時の最大変形量4/100以下
剛性(E×I)ｽﾊﾟﾝ40cm幅30cmの中央曲げ時に荷重720Nの時、たわみ4mm以下となる剛性		−	−	80,000N・cm2以上

(試験方法)
(1)寸法の試験方法
(厚さ)供試体の周辺から20mm以上内側の四隅を0.05mmmmまで測定できる測定器で測り、4点の平均値を求めてﾊﾟﾈﾙの厚さとする。
(2)曲げ強度試験は、JIS A1408「建築用ﾎﾞｰﾄﾞ類の曲げ及び衝撃試験方法」による。試験体は3号試験体とする。測定項目については、100,200,300ｻｲｸﾙ完了後の合計4項目に亘って測定する。(窯業系ﾊﾟﾈﾙⅡ類は200ｻｲｸﾙまでとする。)
(3)吸水率試験は、JIS A5430「繊維強化ｾﾒﾝﾄ板」に準じて行う。
(4)難燃性試験は、JIS A1321「建築物の内装材料及び工法の難燃性試験方法」に準じて行う。
(5)吸水による長さ変化率試験は、試験体(幅40mm×長さ160mm×素材厚さ)を乾燥機に入れ、その温度を60±3℃に保ち24時間経過した後取り出してJIS K8123「塩化ｶﾙｼｳﾑ(試薬)」に規定する塩化ｶﾙｼｳﾑ又はJIS K1464「工業用乾燥剤」に規定する品質に適合するｼﾘｶｶﾞﾙで調湿したﾃﾞｼｹｰﾀに入れ、常温まで冷却する。
次に、試験片の標線間隔が140mmになるように標線を刻む。その後、1/150mm以上の精度をもつｺﾝﾊﾟﾚｰﾀを用いて標線間の長さを測定し、それを基準(L1)とする。次に試験片の長さ方向を水平にこば立てし、その上端が水平下約30mmとなるように保持して、常温の水中に浸せきする。
48時間経過した後、試験片を水中から取り出して湿布で表面に付着した水を拭き取り、再び標線間の長さ(L2)を測る。
吸水による長さ変化率(ΔL)は、次式によって求める。
(ΔL)=(L2-L1)/L1×100　　ΔL：吸水による長さ変化率(%)
L1:乾燥時の標線間の長さ(mm)　　L2:吸水時の標線間の長さ(mm)
(6)耐凍結融解性能試験は、JIS A5422「窯業系ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞ」の気中凍結水中融解法によって行う。
100,200,300各ｻｲｸﾙ完了時の曲げ強度測定及び外観の状態を観察する。
(窯業系ﾊﾟﾈﾙⅡ類は200ｻｲｸﾙまでとする。)-20±3℃の気中で約2時間の凍結、20±3℃の水中で約1時間の融解を行う約3時間を1ｻｲｸﾙとする。
(7)耐衝撃性能試験は、JIS A1408「建築用ﾎﾞｰﾄﾞ類の曲げ及び衝撃試験方法」の衝撃性試験に準じて行う。
試験体の支持装置は、記号S2対辺単純支持方法による。
試験体の大きさは、4号(長さ400mm、幅300mm)とする。おもりは記号(W1-1000又はW2-500)とする。
金属複合板の残留変形量は、最大くぼみ深さを測定する。

11 タイル工事

セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り

〈既製調合ﾓﾙﾀﾙ〉
(品質・性能)

項目		品質・性能
保水率		70.0%以上
単位容積質量		1.8kg/l以上
接着強さ	標準時	0.6N/mm2以上
	温冷繰り返し後	0.4N/mm2以上
長さ変化率		0.2%以下
曲げ強さ		4.0N/mm2以上

(試験方法)
(1)試料の調製
製造業者の定める、正味質量と標準練り上がり量より換算して、所定量の試料を練り上げるのに要する材料と練り混ぜ水を計算して用意する。練り混ぜは、JIS R5201「ｾﾒﾝﾄの物理試験方法」の9.1に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、撹拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。
(2)保水率の試験方法
JIS R3202「ﾌﾛｰﾄ板ｶﾞﾗｽ及び磨き板ｶﾞﾗｽ」に規定するみがき板ｶﾞﾗｽ(縦150mm、横150mm、厚さ5mm)の上にJIS P3801「ろ紙(化学分析用)」に規定する5Aろ紙(直径11cm)をのせ、その中央部に真ちゅう製ﾘﾝｸﾞ型わく(内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm)を殺置し、(1)で調製した試料を金べらで平滑に詰込む。
その後、直ちにﾘﾝｸﾞ型わく上部にｶﾞﾗｽ板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。60分後にろ紙へにじみ出した水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをﾉｷﾞｽを用いて、1mmの単位まで測定する。試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。
保水率=50/平均値×100　(注)50:ﾘﾝｸﾞ型わくの内径(mm)
(3)単位容積質量の試験方法
JIS A1171「ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙの試験方法」に準ずる。
(4)接着強さ(標準時)の試験方法
ｲ)適用ﾀｲﾙがｲ「ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ」の場合
(試験体の作製)JIS A5371「ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ製品」の附属書B(規定)及び推奨仕様B-1に規定する普通平板M-300を下地板とし、表面をｻﾝﾄﾞﾍﾟｰﾊﾟｰを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに(1)で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちにJIS A5209「陶磁器質ﾀｲﾙ」に規定する外装壁ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙで乾式成形のⅠ類(施ゆう)「50角ﾕﾆｯﾄﾀｲﾙ(外のりｻｲｽ約300mm×300mm)」を圧着する。
その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。
(試験方法)JIS A6909「建築用仕上塗材」の7.9付着強さ試験に準じて行う。試験体をﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞｶｯﾀｰを用いて、ﾀｲﾙ周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、ｴﾎﾟｷｼ樹脂接着剤で鋼製ｱﾀｯﾁﾒﾝﾄを接着し、引張試験機を用いて接着強さ試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。(全てが0.6N/mm・以上)
ﾛ)適用ﾀｲﾙが「小口ﾀｲﾙ・二丁掛けﾀｲﾙ」の場合
(試験体の作製)JIS A5371「ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ製品」の附属書B(規定)及び推奨仕様B-1に規定する普通平板M-300を下地板とし、表面をｻﾝﾄﾞﾍﾟｰﾊﾟｰを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに(1)で調製した試料を厚さ7mmになるよう塗付ける。直ちにJIS A5209「陶磁器質ﾀｲﾙ」に規定する外装壁ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙで乾式成形のⅠ類(施ゆう)「小口ﾀｲﾙ108mm×60mm×12mm」を4枚2列、目地8枚を圧着する。
その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。
(試験方法)「ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ」の場合と同様に行う。
(5)接着強さ(温冷繰返し後)の試験方法
(試験体の作製)「ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ」及び「小口ﾀｲﾙ・二丁掛けﾀｲﾙ」とも、各々(4)接着強さ(標準時)の試験方法の「試験体」と同様とする。
(温冷繰返し試験)「ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ」及び「小口ﾀｲﾙ・二丁掛けﾀｲﾙ」とも、各々JIS A6909「建築用仕上塗材」の7.10温冷繰返し試験に準じて行う。
試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間浸せきした後、直ちに-20±2℃の恒温器中で3時間冷却し、次いで50±2℃の別の恒温器中で3時間加温し、この24時間を1ｻｲｸﾙとする操作を10回繰返した後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び膨れの有無を目視によって調べる。
(温冷繰返し後の接着強さ試験方法)「ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ」及び「小口ﾀｲﾙ・二丁掛けﾀｲﾙ」とも、各々温冷繰返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。　(全てが0.4(N/mm・)以上)
(6)長さ変化率の試験方法
JIS A6203「ﾓｻﾞｲ混和用ﾎﾟﾘﾏｰﾃﾞｨｽﾊﾟｰｼﾞｮﾝ及び再乳化形粉末樹脂」9.9長さ変化率に準ずる。
(7)曲げ強さの試験方法
JIS A6916「建築用下地調整塗材」7.11 曲げ強さ試験に準ずる。
試験室の状態：試験室は、温度20±2℃、湿度65±10%とする。

〈既製調合目地材〉
(品質・性能)

項目	品質・性能
保水率	30.0%以上
長さ変化率	0.2%以下(収縮)
吸水量	50g以下
単位容積質量	1.8kg/l以上

(試験方法)
(1)試験の条件
試験室は、温度20±2℃、湿度65±5% RHの標準状態とする。また、試験に使用する材料、器具などを、予め24時間以上標準状態に置いた後使用する。
(2)試料の調整
正味質量と標準練り上がり量より、1.0～1.2kgの試料を練り上げるのに要する材料に相当する量を計算して用意し、さらに標準加水量より用意した材料に相当する量の練り混ぜ水を計算して用意する。練り混ぜは、JIS R5201「ｾﾒﾝﾄの物理試験方法」10.1に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、撹拌しながら30秒間に材料を投入し3分間練り混ぜて試料とする。
(3)保水性(ろ紙法)
JIS R3202「ﾌﾛｰﾄ板ｶﾞﾗｽ及び磨き板ｶﾞﾗｽ」に規定する磨き板ｶﾞﾗｽ(縦200mm、横200mm、厚さ5mm)の上にJIS P3801「ろ紙(化学分析用)」に規定する5Aろ紙(直径18.5cm)をのせ、その中央部に真鍮製ﾘﾝｸﾞ型わく(内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm)を殺置し、2)で練り混ぜた試料を金べらで平滑に詰め込む。その後、直ちにﾘﾝｸﾞ型わく上部にｶﾞﾗｽ板を当て上下を逆さにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。
10分後にろ紙へにじみ出した水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをﾉｷﾞｽを用いて1mmまで測定する。試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。
保水率(%)=50/平均値×100　　注)50:ﾘﾝｸﾞ型わくの内径(mm)
(4)単位容積質量
(2)で練り混ぜた試料を、JIS A1171「ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙの試験方法」の6.3に規定する方法で求める。
(5)長さ変化率
(2)で調整した試料を用いてJIS A1171の7.6長さ変化率試験に従って行う。
(6)吸水量
(3)で調整した試料を用いてJIS A1404「建築用ｾﾒﾝﾄ防水剤の試験方法」10.に規定する方法で24時間の吸水量を求める。試験体数は3個とし、その平均値とする。

15 左官工事

モルタル塗り

〈防水剤〉
(品質・性能)

項目	品質・性能
防水剤の種別	建築用のﾓﾙﾀﾙに用いるｾﾒﾝﾄ防水剤
混合割合	ｾﾒﾝﾄ重量の5%以下
凝結及び安定性	(凝結) JIS R5201「ｾﾒﾝﾄの物理試験方法」の8の規定によって行う。 凝結時間　始発：1時間以上　終結：10時間以内 (安定性) JIS R5201「ｾﾒﾝﾄの物理試験方法」の9の規定によって行い、収縮性、膨張性のひび割れ及びそりについて観察する。
曲げ及び圧縮強度比	70%以上
吸水比	95%以下
透水比	80%以下

(試験方法)
JIS A1404「建築用ｾﾒﾝﾄ防水剤の試験方法」による。ただし、透水試験における水圧は、294.0kPaとし1時間行う。

16 建具工事

建具金物

〈錠前類〉【ｼﾘﾝｸﾞ箱錠及びｼﾘﾝｸﾞ本締り錠】
(品質)
ﾃﾞｯﾄﾞﾎﾞﾙﾄの出寸法は17mm以上とする。鍵付きのものはﾏｽﾀｰｷｰ、ｸﾞﾗﾝﾄﾞﾏｽﾀｰｷｰ、ｺﾝｽﾄﾗｸｼｮﾝｷｰなどのｷｰｼｽﾃﾑが構築できるものとする。
(性能)
使用頻度による性能
1)(ｼﾘﾝｸﾞ箱錠のみ)ﾗｯﾁﾎﾞﾙﾄの開閉繰り返し試験(40万回)を行った後、ﾊﾝﾄﾞﾙでの開閉操作力及びﾗｯﾁﾝｸﾞ力が試験前の2倍未満であり、動作に支障がない。
2)ｷｰによるﾃﾞｯﾄﾞﾎﾞﾙﾄの施解錠繰り返し試験(10万回)を行った後、試験前の回転ﾄﾙｸの2倍未満であり、施解錠操作に支障がない。(ｼﾘﾝｸﾞ本締り錠のみ)ｼﾘﾝｸﾞ単体の施解錠繰り返しの評価は、ｼﾘﾝｸﾞだけの回転ﾄﾙｸが10N・cm以下とする。
3)ｷｰによる施錠機構の施解錠繰り返し試験(10万回)を行なった後、試験前の回転ﾄﾙｸの2倍未満であり、施解錠操作に支障がない。
4)ｷｰの抜き差し繰り返し試験(10万回)を行なった後、ｷｰの抜き差しに要する荷重は10N以下である。
また、未使用の合鍵でｼﾘﾝｸﾞが回転でき、かつ、1箇所1段差浅い刻みをもつ異なるｷｰでは、ｼﾘﾝｸﾞが回転しないこと。(ｷｰに加えるﾄﾙｸは、150N・cmとする)

外力に対する性能
1)ﾃﾞｯﾄﾞﾎﾞﾙﾄの押込み強度試験(10kN)を行なった後、荷重を除いたときのﾃﾞｯﾄﾞﾎﾞﾙﾄの出寸法は8mm以上であること。
2)ﾃﾞｯﾄﾞﾎﾞﾙﾄの側圧強度試験(10kN)を行なった際、加圧板がﾃﾞｯﾄﾞﾎﾞﾙﾄを通過しない。
3)ﾃﾞｯﾄﾞﾎﾞﾙﾄの押込み強度(衝撃荷重)試験(58.8J)の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態(ﾃﾞｯﾄﾞﾎﾞﾙﾄの突出量が8mm未満)にならないこと。
4)ﾃﾞｯﾄﾞﾎﾞﾙﾄの側圧強度(衝撃荷重)試験(58.5J)の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態(加圧板がﾃﾞｯﾄﾞﾎﾞﾙﾄを通過した状態)にならないこと。
5)(ｼﾘﾝｸﾞ本締り錠はｸﾞﾚｰﾄﾞ3以上の彫込錠の場合)ｽﾄﾗｲｸﾌﾟﾚｰﾄの厚さ1.5mm以上のｽﾃﾝﾚｽ鋼製とし、ﾄﾛﾖｶは厚さ1.6mm以上の鋼製の一体絞りとする。又はｽﾄﾗｲｸの強度と同等以上の強度を持つものする。

使用扉の質量に対する性能(ｼﾘﾝｸﾞ箱錠のみ)
1)ﾗｯﾁﾎﾞﾙﾄの側圧強度試験(4kN)を行い、荷重を除いたとき、ﾊﾝﾄﾞﾙ操作及びﾗｯﾁﾝｸﾞに支障がない。
2)ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙのねじり強度試験(3.5kN・cm)を行なった後、ﾄﾙｸを除いたとき、ﾊﾝﾄﾞﾙが正常に作動していること。また、施錠時ﾊﾝﾄﾞﾙが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。
3)握り玉のねじり強度試験(3kN・cm)を行なった後、ﾄﾙｸを除いたとき、握り玉が正常に作動していること。また、施錠時握り玉が固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。
4)ﾊﾝﾄﾞﾙの引張強度試験(2kN)を行い、荷重を除いたとき、ﾊﾝﾄﾞﾙが正常に作動していること。また、施錠時ﾊﾝﾄﾞﾙが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。
5)ﾊﾝﾄﾞﾙの垂直荷重強度試験(2kN)を行い、荷重を除いたとき、ﾊﾝﾄﾞﾙが正常に作動していること。また、施錠時ﾊﾝﾄﾞﾙが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。

鍵
1)かぎ(鍵)数は、1.5万以上とする。ただし、異なるｷｰｳｪｲ形状であっても、共通のｷｰｾｸｼｮﾝが存在する場合は、有効かぎ(鍵)違い数とみなさないものとする。
2)同一ｼﾘﾝﾀﾞｰの使用数は、60%以下とする。また、6本ｼﾘﾝﾀﾞｰにおいては、ｷｰの同一刻みは、最大2連続までとしていること。

試験方法は、JIS A1541-1(建築金物-錠-第1部:試験方法)による。

〈錠前類〉【ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ】
(性能)
ねじり強度
ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙのねじり強度試験(3.5kN・cm)を行なった後、ﾄﾙｸを除いたとき、ﾊﾝﾄﾞﾙが正常に作動していること。また、施錠時ﾊﾝﾄﾞﾙが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がないこと。

引張り強度
ﾊﾝﾄﾞﾙの引張強度試験(2kN)を行い、荷重を除いたとき、ﾊﾝﾄﾞﾙ が正常に作動していること。また、施錠時ﾊﾝﾄﾞﾙが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がないこと。
垂直荷重強度
ﾊﾝﾄﾞﾙの垂直荷重強度試験(2 kN)を行い、荷重を除いたとき、ﾊﾝﾄﾞﾙが正常に作動していること。また、施錠時ﾊﾝﾄﾞﾙが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がないこと。

試験方法は、JIS A1541-1-2006及びJIS A1541-1(建築金物-錠-第1部:試験方法)による。

〈ｸﾛｰｻﾞ類〉
(品質・性能)

区分 / 性能試験項目			番手	①ﾄﾞｱｸﾛｰｻﾞ 閉じﾓｰﾒﾝﾄ(N・m)	①ﾄﾞｱｸﾛｰｻﾞ 効率(%)	②ﾋﾝｼﾞｸﾛｰｻﾞ 閉じﾓｰﾒﾝﾄ(N・m)	②ﾋﾝｼﾞｸﾛｰｻﾞ 効率(%)	③ﾌﾛｱﾋﾝｼﾞ 閉じﾓｰﾒﾝﾄ(N・m)	③ﾌﾛｱﾋﾝｼﾞ 効率(%)
初期値	閉じ力及び効率による区分(注1)(注2)	Grade2	1	5以上	30以上	5以上	30以上	5以上	30以上
			2	10以上	30以上	10以上	30以上	10以上	30以上
			3	15以上	35以上	15以上	35以上	15以上	35以上
			4	25以上	40以上	25以上	40以上	25以上	40以上
			5	35以上	45以上	35以上	45以上	35以上	45以上
			6	45以上	45以上	45以上	45以上	45以上	45以上
	閉じ速度(秒)			常温(5～35℃)無風状態において、開扉(70°)から全開(0°)までの時間を5～8秒に調整できること。					
	温度依存性(℃)			緩衝油の流動点は、JIS K2269(原油及び石油製品の流動点並びに石油製品曇り点試験方法)により測定し、-15℃以下であること。					
	ｽﾄｯﾌﾟ力	ｽﾄｯﾌﾟ入力		60N・m以下 但し、ｺﾝｼｰﾙﾄﾞ型は200N・m以下		100N・m以下		100N・m以下	
		ｽﾄｯﾌﾟ解除力		8N・m以上		3N・m以上		10N・m以上	
	ﾊﾞｯｸﾁｪｯｸ性能(秒)(ﾊﾞｯｸﾁｪｯｸ機能を有する機種のみ適用)			ﾄﾞｱ開扉方向に荷重60 N/㎡を開扉50°から負荷する。ﾊﾞｯｸﾁｪｯｸ開始角度(70～85°)から更に20°まで開く間の時間は0.8秒以上としていること。		−		−	
	ﾃﾞｨﾚｰﾄﾞｱｸｼｮﾝ性能(秒)ﾃﾞｨﾚｰﾄﾞｱｸｼｮﾝ解除角度(60～75°)(ﾃﾞｨﾚｰﾄﾞｱｸｼｮﾝ機能を有する機種のみ適用)			開扉90°の位置からﾃﾞｨﾚｰﾄﾞｱｸｼｮﾝ解除角度までの時間が10秒以上確保でき、また、その時間の調整が可能であること。		−		−	
	戸の閉鎖位置(中心吊り込み両自由のみに適用)			−		−		±3mm以内	
耐久性	繰返し開閉後の閉じﾓｰﾒﾝﾄ(N・m)	Grade2		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。	
	繰返し開閉後の効率(%)	Grade2		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。	
	繰返し開閉後の閉じ速度(秒)			耐久試験後も上記初期値を満足していること。					
	繰返し開閉後のﾊﾞｯｸﾁｪｯｸ性能(秒)			耐久試験後も上記初期値を満足していること。		−		−	
	繰返し開閉後のﾃﾞｨﾚｰﾄﾞｱｸｼｮﾝ性能(秒)			耐久試験後も上記初期値を満足していること。		−		−	
	繰り返し開閉後の戸閉鎖位置(mm)			−		−		耐久試験後±6mm以内	
	耐久性の試験回数(繰り返し開閉回数)	Grade2		20万回		10万回		30万回	

注1.ﾊﾞﾗﾙﾄ取付けは、右記の閉じﾓｰﾒﾝﾄの70%程度までとする。
注2.ｺﾝｼｰﾙﾄﾞ型は右記の閉じﾓｰﾒﾝﾄの50%程度までとする。
Grade1を選定する場合は、図示による。

(試験方法)
1)性能試験は、JIS A1510-3(建築用ﾄﾞｱ金物の試験方法-第3部:ﾌﾛｱﾋﾝｼﾞ、ﾄﾞｱｸﾛｰｻﾞ及びﾋﾝｼﾞｸﾛｰｻﾞ)に規定する試験方法による。
2)試験ﾄﾞｱの質量は、1番手は25kg、2番手は40kg、3番手は60kg、4番手は80kg、5番手は100kg、6番手は120kgとする。

自動ドア開閉装置

〈自動ﾄﾞｱ開閉装置〉
(品質・性能)
駆動装置・制御装置

項目	品質・性能			
作動電圧	定格電圧に対し90%～110%の電圧で作動に異常がない			
適用使用周囲温度(℃)	-10℃～40℃			
電動機の焼損防止措置	電動機にｻｰﾏﾙﾌﾟﾛﾃｸﾀｰを内蔵、又は制御装置に保護回路を設置			
検出装置(本体ｾﾝｻｰ、補助ｾﾝｻｰ)				
項目	品質・性能			
作動電圧範囲	定格電圧90%～110%で作動させた時に異常がないこと。			
出力接点容量	有接点		無接点	
	AC100V	0.3A以上(抵抗負荷)	DC50V	0.1A以上(抵抗負荷)
	DC30V	0.3A以上(抵抗負荷)	−	−
	DC50V	0.1A以上(抵抗負荷)	−	−
応答時間(秒)	0.3以下			
検出範囲	試験により確実に作動すること。			
適用使用周囲温度(℃)	-10℃～40℃			

(試験方法)
(1)応答時間0.3m/secの早さで移動している標準被試験体が検出範囲に入ってから、ON信号を出力するまでの時間を測定する。
(2)検出範囲
a.ｺﾞﾑﾏｯﾄｽｲｯﾁは、直径100mmの鋼製円柱(質量10kg)を不感部を除く全面に静かに置いたとき、確実に作動すること。
b.上部取り付け形の動体検出形は、150mm/secの速度で、検出範囲に近づけたとき確実に作動すること。
c.上部取り付け形の静止体検出形は、50mm/secの速度で、検出範囲に近づけたとき、確実に作動すること。
注)取り付け位置などにより、上記によりがたい場合は、当該ｾﾝｻｰに適した方法の試験を行い確実に作動することを確認する。
〈試験条件〉
(1)無目付ｾﾝｻｰ又は天井付ｾﾝｻｰの検出体及び検出範囲試験は、JIS A1551の7.6による。
(2)熱線ｽｲｯﾁ……被検出体表面温度、33±2℃とし、周辺温度は、被検出体表面温度より5℃±2℃低い値とする。
(3)超音波ｽｲｯﾁ…温度-10℃、湿度75%、風速10m/secとする。
(4)試験室の状態は、JIS Z8703「試験場所の標準状態」の常温、常湿による。
(3)耐放射ｲｽﾞ
放射無線周波電磁界ｲﾐｭﾆﾃｨ試験とする。(ただし、電界強度は一定とする。)

自動式上吊り引戸装置

〈自動式上吊り引戸装置〉
(試験方法)
(1)耐久性(開閉繰り返し)試験
閉については外力によらず、試験体の自開装置及び制御装置のみにより戸を開端位置から閉端位置までの作動を確認できる試験を行う。
同試験に用いる試験体は片引戸とし、開口内法有効高さ2,000mm、幅は最大寸法とする。
適用戸総質量の区分毎に試験を行う。自開装置、制御装置は10万回以上の時点で1回のみ調整を行えるものとし、また、その他の制御装置についてはﾒｰｶｰの耐久性能試験成績書において2万回以上の耐久性能を確認することで、試験に代えることができるものとする。
(2)耐衝撃性試験
落下高さ17cmにて、ﾄﾞｱの中央部にﾄﾞｱが外れる方向に衝撃を与える。耐衝撃性試験に用いる試験体は片引戸、開口内法有効寸法は高さ2,000mm、幅900mmとする。適用戸総質量の区分毎に試験を行う。
(3)気密性能試験
JIS A1516「建具の気密性試験方法」による。

19 内装工事

断熱材

〈現場発泡断熱材〉
(品質・性能)

項目	品質・性能
難燃性	下記のいずれかによっていること (1)JIS A1321「建築物の内装材及び工法の難燃性試験方法」による難燃2級表面加熱試験又は難燃3級表面加熱試験に適合していること。 (2)法定準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している発熱性試験(ｺｰﾝｶﾛﾘｰ試験)に適合していること。
発熱性	準不燃材料試験の加熱時間は10分、難燃材料試験の加熱時間は5分において次の(1)～(3)に適合していること。 (1)総発熱量が8MJ/m・以下であること。 (2)防火上有害な裏面まで貫通する亀裂及び穴がないこと。 (3)最高発熱速度が、10秒以上継続して200kW/m・を超えないこと。

(試験方法)
(1)原液試験(原液粘度試験)
JIS K7117-1「ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ-液状、乳濁状又は分散状の樹脂-ﾌﾞﾙｯｸﾌｨｰﾙﾄﾞ形回転粘度計による見掛け粘度の測定方法」による。
(2)発泡品試験
1)試料の作成は、JIS A9526「建築物断熱用吹付け硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ」の6.2.1による。
2)試料の状態調節は、JIS A9526の6.2.2による。また、試験片の作成はJIS A9526の6.2.3による。
3)試験片の状態調節及び試験場所は、JIS A9526の6.2.4による。
(3)圧縮強さ試験
JIS A9526の6.2.5により、測定はJIS K7220「硬質発泡ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ-圧縮特性の求め方」による。
(4)熱伝導率試験
JIS A9526の6.2.6により、JIS A1412-1「熱絶縁材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法-第1部:保護熱板法(GHP法)」又はJIS A1412-2「熱絶縁材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法-第2部:熱流計法(HFM法)」によって、平均温度(23±2)℃、高温板と低温板の温度差(25±5)℃で熱伝導を測定する。
(5)接着強さ試験
JIS A9526の6.2.7による。
(6)透湿率試験
JIS A9526の6.2.8により、測定はJIS A1324「建築材料の透湿性測定方法」又はJIS K7225「硬質発泡ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ-水蒸気透過性の求め方」による。
(7)難燃性の表面加熱試験
JIS A1321に規定する試験方法に準じる。
(8)発熱性試験
建築基準法に基づく指定性能評価機関が準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している試験方法に準じる。

株式会社 横河建築設計事務所
YOKOGAWA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.

東京都品川区上大崎2-25-2
株式会社 横河建築設計事務所
一級建築士登録 第210615号
長 浦 雅 人

東京都品川区上大崎2-25-2
株式会社 横河建築設計事務所
一級建築士登録 第233442号
和 田 雅 彦

東京都品川区上大崎2-25-2
株式会社 横河建築設計事務所
一級建築士登録 第307492号
朝 井 典 之

平成27年度静岡県立総合病院仮設救急車寄新築工事

建築材料等品質性能表(1)

A1：-
A3：-

A－08